小中学校の学校改革の推進について

義務教育課・学びの改革支援課
（学校改革支援センター）

小中学校の学校改革の推進

社会の多様化やグローバル化、人口減少社会等、変化が激しく、未来が予測できない社会状況の中、従来の学校の枠組みや授業の在り方は限界にきており、学校・授業・教員の在り方を変えていく必要がある。

新時代創造プロジェクト「個別最適な学びへの転換プロジェクト」に取り組む一環として進めてきた「ウェルビーイング実践校 TOCO-TON（トコトン）」は、すべての子どもが、好きや楽しい、なぜをとことん追求するために、自ら学び方等を選択でき、自己実現できる学校を目指し、「学校の仕組み変革」に挑戦し、子ども、保護者、地域と一緒に学校づくりを行い、学校の新しい当たり前を創っていく。

学校づくりの主体は学校と教員、地域であり、県教育委員会では、ウェルビーイング実践校 TOCO-TON を含む改革を目指すすべての学校を伴走支援する組織として、令和７年度、「学校改革支援センター」を設置する。同センターでは、実践校の取組やその成果を広く県内に周知するとともに、指導主事の支援の在り方も見直し、本県の小中学校の学校改革を進めていく。

１　ウェルビーイング実践校ＴＯＣＯ―ＴＯＮ（トコトン）

（１）実践校として取り組むこと

・学校の仕組み変革※に挑戦
・子ども、保護者、地域と一緒に学校づくり
・他校への横展開につながるよう取組の経過を公表、学校公開を実施

※学校の仕組み変革の例

・子どもたち自身が学校のルールを作る・決める ・幼保（やまほいく等）と小学校の接続 ・異年齢での学級、学習の実践 ・地域とともに学校づくりを進める ・教員の働き方改革の推進

（２）令和７年度の実践校

全応募 38 件を、県教育委員会が審査し、以下の 12 市町村教育委員会（70 校）を実践校に指定

教育委員会	学校数	目指す学校（地域）
御代田町	3	自尊感情が高まった子どもたちと働きやすい職場にいる先生方がつくる楽しい学校。
岡谷市	11	岡谷のまちを学園化し、異年齢交流の環境づくり、市内全域での小中一貫教育。
箕輪町	6	子どもが主役の学校づくり　「ワクワクドキドキする学校づくり」やまほいく、保、小、中の壁をなくす。

飯田市	28	全市小中一貫で、子どもと地域の未来をひらく教育を。小中の異学年が一緒に取り組む行事や学習。
高森町	3	豊かな自然と 12 年スパンで、教育を最適化。幼保小中通じた体験学習の系統化。
平谷村	1	やってみたいが叶う、アジャイルな学校づくり。地域がいつでも関われるオープンな学校。
根羽村	1	小規模ならではの「学びの村づくり」。時間割を子どもが決定できる仕組みづくり。
売木村	2	小規模ならではの、異年齢学習の追求。小・中学生が自己調整しながら共に学ぶ。
松本市	6	「やりたい！」を「ともに」実現するジョイフルラーニングフィールド。
安曇野市	3	限りない探究心を、園から小・中、さらに高校へ。小中高と地域の連携・交流で深める絆と郷土愛。
中野市	4	人間本来の好奇心を開放する仕掛けが沢山。地域の専門家に弟子入りし「やってみたい」をトコトン追求。
栄村	2	「共学共育」自ら学び共に育つ教育。住民主体でこれからの教育改革を。そろえる指導をやめ、多様な生き方や学び方を支援。

（3）県教育委員会の支援

① 実践校を設置する市町村教育委員会への指導主事の配置

② 研修会の実施

7 月	学校改革合同研修会
10 月	学校改革中間発表会
12 月	学校改革合同研修会
2 月	ＴＯＣＯ-ＴＯＮスタートアップイベント

③ 実践校への伴走支援

2 学校改革支援センター

（1）学校改革支援センターのミッション

・子どもたち一人ひとりが自分らしく学ぶことのできる学校、先生方がやりがいを感じながら働くことのできる学校を創るために、これまでの常識にとらわれず、学校づくりを突き詰めていくことを支援する。

・ウェルビーイング実践校 TOCO-TON（トコトン）及び学校改革を進めるすべての学校を伴走支援し、県全体の改革の機運を高める。

・挑戦しようとする長野県教育のシンボルとなる。

（2）組織

相談役		教育長	武田　育夫
統括（センター長）		参事(義務教育改革担当)	小池　徳男
学校改革支援チーム	アドバイザー	信州大学教授	伏木　久始
	チームリーダー	主任指導主事	藤井　篤徳
	指導主事・専門主事　5名		
TOCO-TON 担当指導主事	指導主事 10 名		